

# 地域における取組例【医療機器】 3Dボックススキャナー技術を利用して側弯症診断を支援！

<p><b>(株)スペースビジョン</b> (東京都中央区)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 慶應義塾大学等の研究成果に基づきJST「<u>プレベンチャー事業</u>」の支援で設立された大学発ベンチャー。</li> <li>● <u>慶應義塾医学部・理工学部、東京都予防医学協会と連携</u>し、側弯症診断支援システムの実証研究を牽引。</li> </ul>
<p><b>ポテンシャル</b> (強み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品化済みのボディスキャナーは合計12台の3Dカメラを備えており、<u>3次元の人体像を再構成する</u>。</li> <li>● 従来の競合システムと比較して、<u>可搬性、設置の簡便性、計測速度、価格などで極めて優位</u>。</li> </ul>
<p><b>取組内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しいコンセプト製品であるため、早期に<u>特許等の知的財産権に関する先行例調査・コンフリクト調査を実施</u>。</li> <li>● 大学病院等と連携し、<u>臨床データ収集・分析。データをAIの学習に活用し、診断能力の向上</u>を図る。</li> </ul>

<p><b>対象・市場</b> ※数字は現在</p>	<p>日本：患者100万人/年、市場100億円/年</p>	<p>世界：患者2,800万人/年（内、米国400万人/年）、2,000億円/年</p>
--------------------------------	-------------------------------	--

**【事業管理機関】**  
三菱UFJリサーチ&コンサルティング

**【プロジェクトマネージャー】**  
篠田 正博 ((株)日本医療機器開発機構)

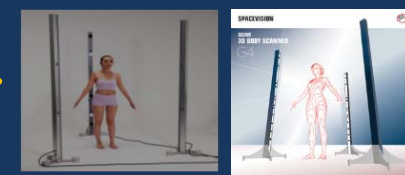
- 元米国FDA医療機器審査官である内田 CEOを筆頭に、医療機器のインキュベーターとして高い事業化力をもつ
- 市場、知財調査など事業戦略策定支援
- 薬事戦略、知見プロトコル策定支援

**【外注先】**  
東京都予防医学協会

- 臨床協力
- 関東圏で側弯症の学校検診サービスを年間6万件実施している最大手

**新しい検査法**

(株)スペースビジョン



資本金：53百万円  
売上：53百万円  
従業員：5名

- 3Dボックススキャナーの開発
- 側弯症診断システムの共同開発
- 試作ニーズの技術的課題解決

**<側弯症診断システム>**

**【参画】**  
慶應義塾大学（医学部・理工学部）

- 側弯症の先駆的な研究拠点である、医学部整形外科学教室、及び、渡邊航太医師による協力
- AIを活用した「側弯症診断システム」について、理工学部青木義満教授による協力

**【参画企業】**  
(株)ハイテックス

- データベース及びプラットフォームシステムの開発
- (株)雄島試作研究所
- スキャナー試作部品の製造、アセンブリ
- ミマキ電子部品(株)
- スキャナー量産部品の製造、アセンブリ

事業化支援

共同開発

協力

協力